

いじめ

見逃さないで！子どもからのサイン



子どもから発信される様々なサイン。それは「いじめ」を受けている（している）サインかもしれません。

家庭だけではなく地域全体で子どもたちの小さなサインにいち早く気づき、おとなが子どもの気持ちにしっかりと寄り添えるようにしましょう。

「いじめ」かも？ いつもと違う子どものサイン

行動の変化

- 朝起きてこない。布団からなかなか出てこない。
- パソコンやスマホをいつも気にしている。

からだの反応

- 食欲がなくなったり、だまって食べるようになる。
- ささいなことでイライラしたり、物にあたりたりする。

衣服や物品

- 服が汚れていたり、破れていたりする。
- 学校で使う物や持ち物がなくなったり、壊れたりしている。

「いじめ」をしていませんか？

- 言葉遣いが荒くなる。
- 人のことをバカにする。
- 買った覚えの無い物を持っている。

「いじめ」は心とからだを傷つけるだけではなく、時には命をも奪う重大な人権侵害です。

「いたづら」や「いじり」も受けた側がどう受け止めるかによって、すべて「いじめ」となります。どの子どもにもどの学校でも起こりえることを認識する必要があります。

児童虐待

たたかないで！怒鳴らないで！否定しないで！

207,660件

2021年度（令和3年度）全国の児童相談所が対応した子どもへの虐待相談件数で過去最高となりました。

児童虐待は子どもの心とからだの成長に影響を与える重大な人権侵害です

身体的虐待

なぐる、ける、叩く、投げ落す、やけどを負わす、激しく揺さぶる、首を絞める

性的虐待

子どもへの性的行為、子どもに性器を見せる、裸の写真を撮る

ネグレクト（育児放棄）

家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、病院に連れて行かない

心理的虐待

言葉による脅し、きょうだい間での差別的扱い、目の前で家族に暴力をふるう、無視



しつけ・指導と称してふるわれる暴力的言動は体罰です。その行為は児童福祉法で禁止されています。体罰は子どもの体と心に大きな傷を負わせます。

その他の虐待も同様ですが、子どものときに受けた傷は成長するにつれ消えるどころかますます大きく、深くなります。子どもの心身の成長を阻む人権侵害にほかなりません。

児童虐待は、家庭だけの問題ではなく私たちおとなの問題です。しかし、虐待をしている人も悩みを抱えている場合もあります。

「ひとりぼっちじゃない！ひとりで抱え込まないで！」

児童虐待を防ぐには、行政をはじめ家族・親族・知人や地域等のいろいろな方々の見守りやサポートが必要です！



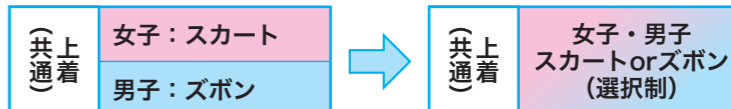
子どもの声に気づいて！

子どものころ、親やおとなから「子どもは黙っときなさい」「子どものくせに、分かったふうなことを言うな」と言われたことはありませんか。

多様な立場の相手の一人としての子どもの意見を尊重しましょう



福山市内の公立中学校の中には、制服選択制を取り入れている学校もあります。



学校教育のなかにSDGsの観点を取り入れていくなかで、SDGsの目標の一つである「ジェンダー平等を実現しよう」から従来の校則を見直すことになりました。子ども（生徒）を中心に校則について議論を重ねるうちに、多様性を認め合う、自分らしく生きることについて学習している子ども（生徒）から制服選択制についての意見も出てきました。

誰もが自分の意志で制服を選べるようになったことで、例えばこれまで、はくことのできなかったズボンをはけるようになった性的マイノリティ当事者の生徒も、自分らしさを表現できるきっかけとなります。社会意識が成熟すれば、さらに子どもたちが生きやすくなるのです。

子どもの「声」には、泣き声、表情、文字なども含まれます。

子どもは、みんな生きている

この世に生まれたすべての子どもはすくすくと成長し、生きる権利が保障されなければなりません。そして、これを保障するのは私たちおとなの義務であり、責務です。



いっぱい学びたい

保育所・幼稚園や学校などでさまざまなことを学びます。周囲の友とのやり取りの中で人間関係の作り方やコミュニケーションを、教科学習の中では知識や見識を備えていきます。

読み、描き、歌い、遊んだあとは、ゆっくり休みたい

文化、芸術などにふれることで情緒、感性を豊かにします。また、心身の成長には遊びも休息も大切な要素です。



すくすく育て大きくなりたい

生まれ育った家庭環境や経済的な理由など、子どもの責任ではなくおとなが作り出す社会によって子どもの成長を妨げたり、ましてや命を奪うことがあってはいけません。



これら子どもの生活を一瞬にして奪う最たるものが「戦争」です。私たちは子どもたちの最善の利益を守らなければなりません。子どもたちの命を脅かす状況を単に個人の問題としてではなく、社会全体の問題として考えていくことが私たち一人ひとりの責任です。

意見表明

育つ、生きる